



平成 26 年 4 月 4 日

各 位

会 社 名 株式会社ヤマダ・エスバイエルホーム
代 表 者 代表取締役社長 松 田 佳 紀
(コード番号 1919 東証第 1 部)
問 合 せ 執行役員副社長兼管理本部長 高 橋 千 明
(T E L . 06-6242-0555)
当社の親会社名 株式会社ヤマダ電機
代 表 者 代表取締役社長 山 田 昇
(コード番号 9831 東証第 1 部)

特別損失計上および業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 25 年 10 月 7 日に公表した平成 26 年 2 月期の通期業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想

(1) 平成26年 2 月期通期 連結業績予想の修正 (平成25年 3 月 1 日～平成26年 2 月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	53,500	350	300	200	0.98
今回修正予想 (B)	49,766	△647	△665	△982	△4.82
増減額 (B - A)	△3,734	△997	△965	△1,182	—
増減率 (%)	△7.0	—	—	—	—
(ご参考)前期通期実績 (平成25年 2 月期)	39,860	△664	△670	△792	△3.89

(2) 平成26年2月期通期 個別業績予想の修正 (平成25年3月1日～平成26年2月28日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	50,800	100	100	0.49
今回修正予想 (B)	47,166	△639	△873	△4.28
増減額 (B-A)	△3,634	△739	△973	—
増減率 (%)	△7.2	—	—	—
(ご参考)前期通期実績 (平成25年2月期)	37,584	△864	△862	△4.23

2. 修正理由

(1) 平成26年2月期 連結業績予想数値の修正 (平成25年3月1日～平成26年2月28日)

売上高は、前年実績対比約25%増の見込みですが、2月の大雪により着工及び工事進捗の遅れが発生したこと、並びに昨年11月から続く深刻な職方不足により、前回の予想値から約7%減少する見込みであります。利益については、カナダ産2×4材の現地価格の上昇と円安による為替差損による原材料の高騰、また高齢化による慢性的な職方不足に加え、昨年9月に業界内の受注棟数が増えたことによって着工が集中し、期末に向けた職方確保のための労務費の上昇が想定を上回ったことが影響しました。なお、原材料の高騰に対しては、昨年11月より価格設定を見直して対応済であります。

次に、昨年8月以降ヤマダ電機グループ内の住宅事業の再編成により一時的に営業人員が増加致しました。平成26年2月期においては、受注体制が強化され、契約実績に貢献しましたが、売上実績に十分寄与するまでには至らなかったことから、結果としてコストアップの要因となり、利益の回復が遅れた一因となりました。

更に、当期純利益においては、昨年度スタートしたミニ分譲事業の販売が苦戦し、定期借地権付建物としての販売を行ったことによる土地の評価減やここ2年以内に出店した支店等について減損損失211百万円を計上したことが影響しました。

その他、新入社員の採用や支店の移転、展示場の開設等がコスト増の一因となりましたが、これらの課題を解決し、今後は営業社員の教育を通じ、戦力化することによって収益に寄与するよう取り組みを強化致します。平成27年2月期は、売上を高めながら利益水準の回復を図ることが出来るように、本日開示の新体制のもと、販売力強化並びに商品力強化を通じ、コスト管理を徹底し利益の最大化を図ってまいります。

(2) 平成26年2月期通期 個別業績予想数値の修正 (平成25年3月1日～平成26年2月28日)

主に連結業績予想の修正理由と同様の内容となります。

※ 上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上